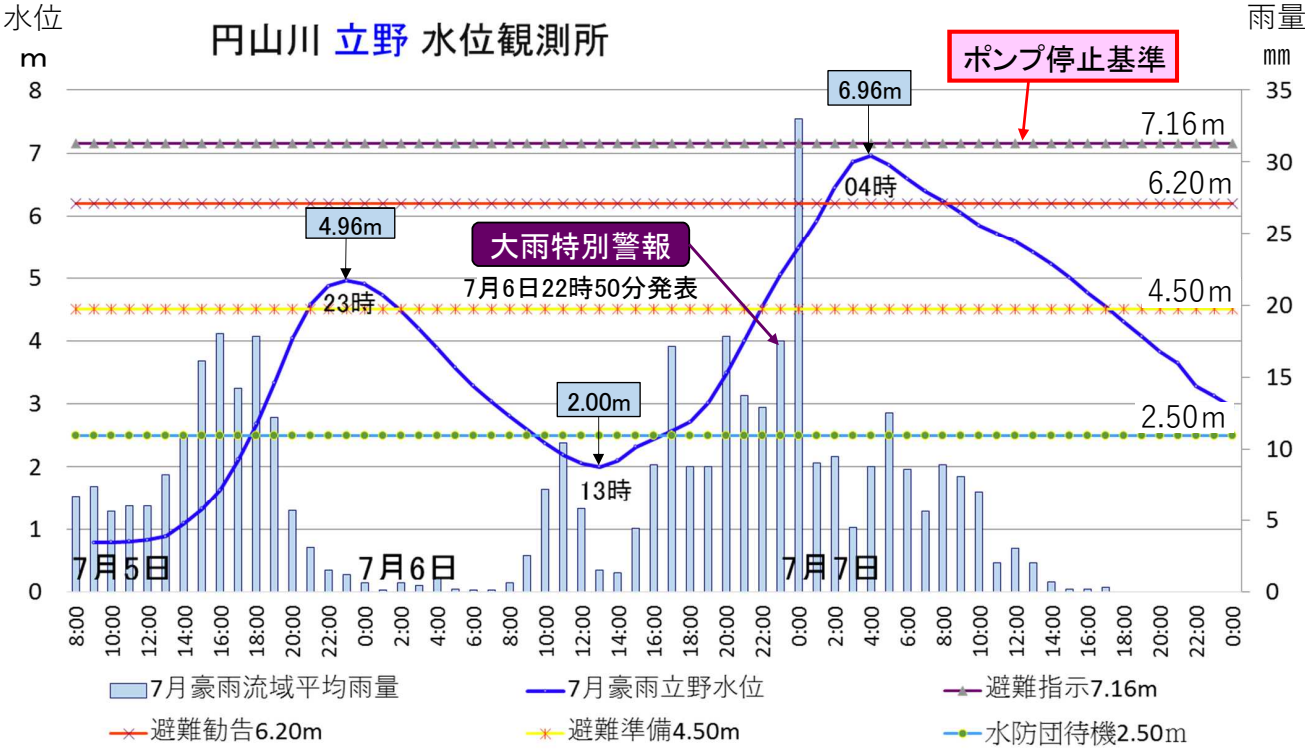


# 平成30年7月豪雨 豊岡市の避難の取組み

## 7月豪雨に係る「円山川水位」と「流域平均雨量」

平成30年7月豪雨では、7月6日22時50分の大雨特別警報発表直後の23時～24時の間、円山川流域の平均時間雨量はそれまでの10mm台/hから33mm/hと急激に変化した。その影響で立野の水位は、排水ポンプ停止基準の7.16mにあと20cmのところまで迫った。



平時

この写真は、平成30年10月31日9時30分(水位0.36m)



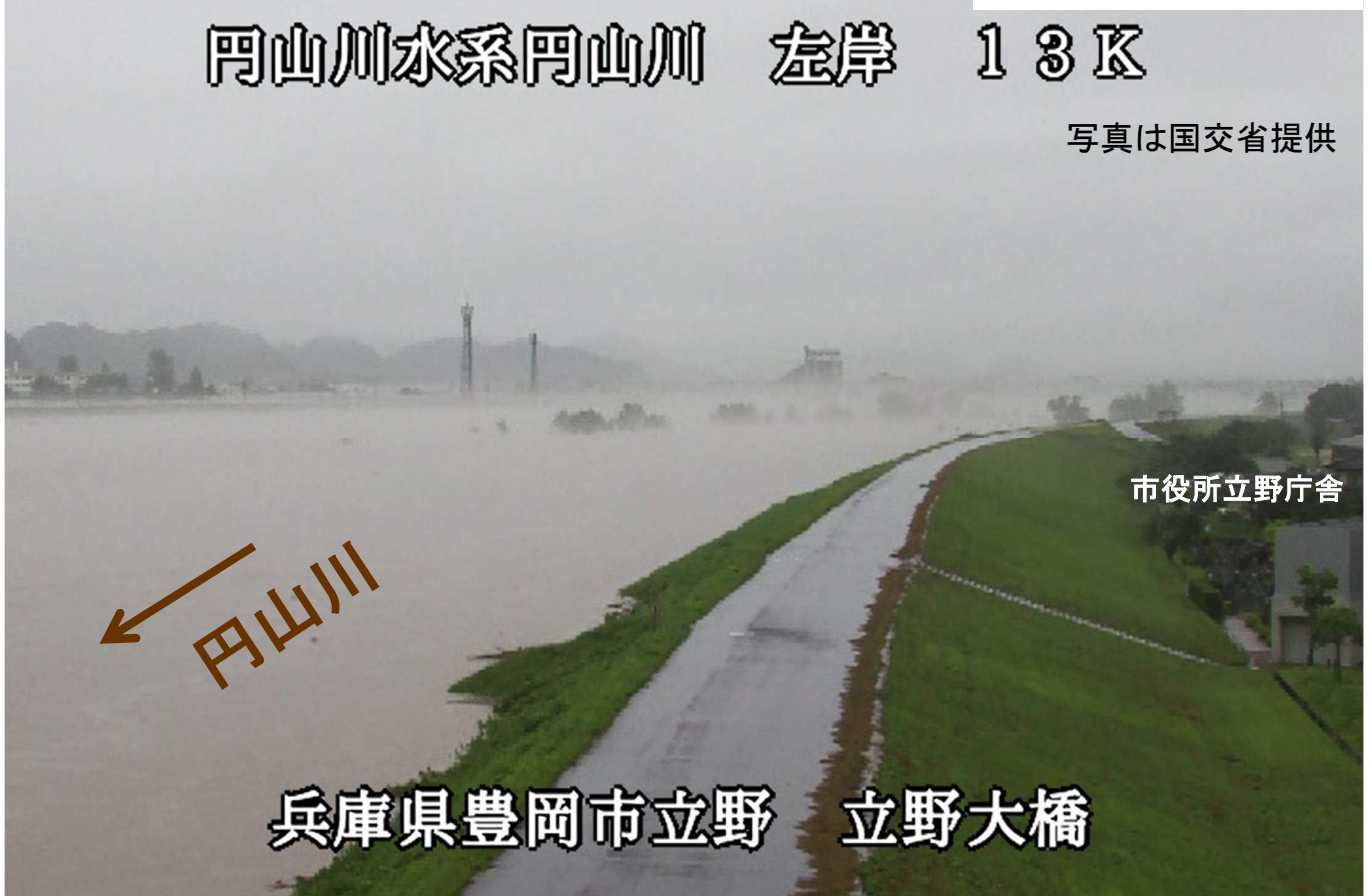
増水時

この写真は、平成30年7月7日7時30分(水位6.32m)

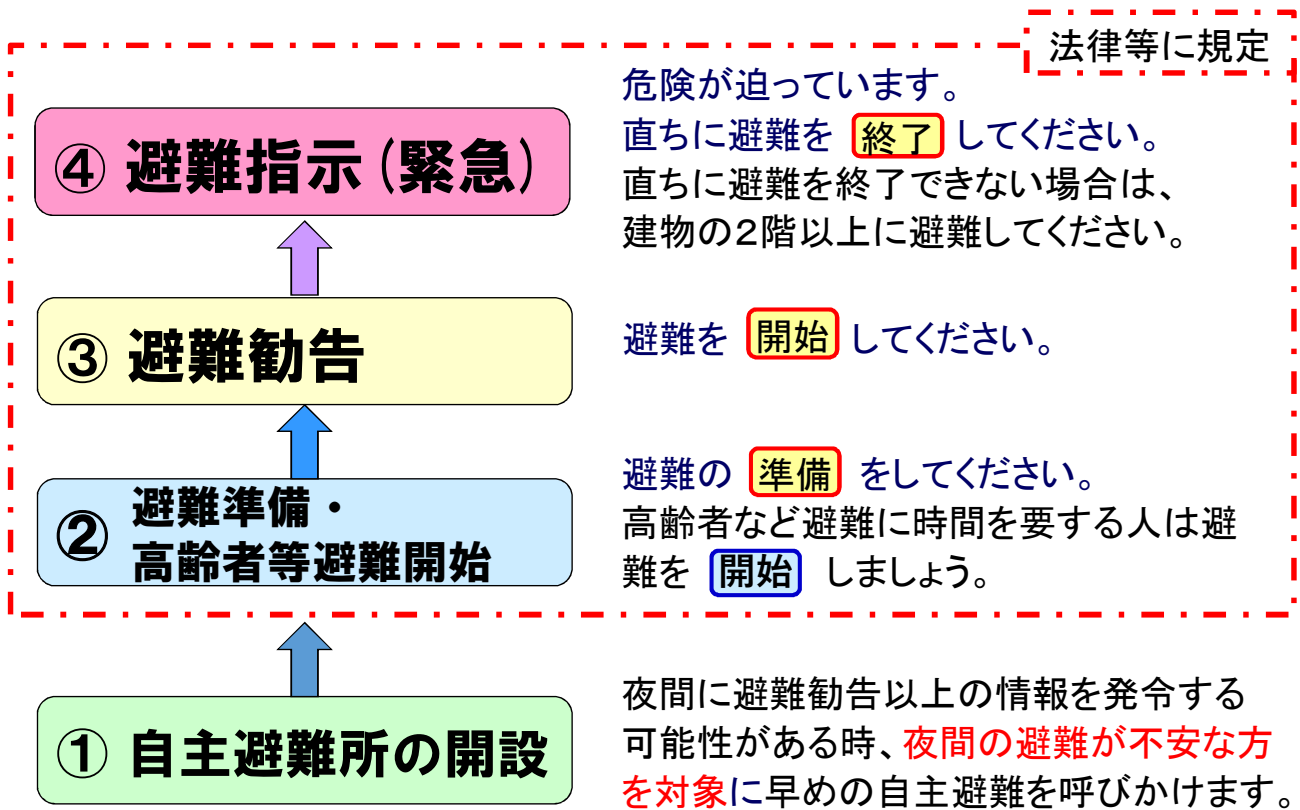
最大時6.96m

円山川水系円山川 左岸 13K

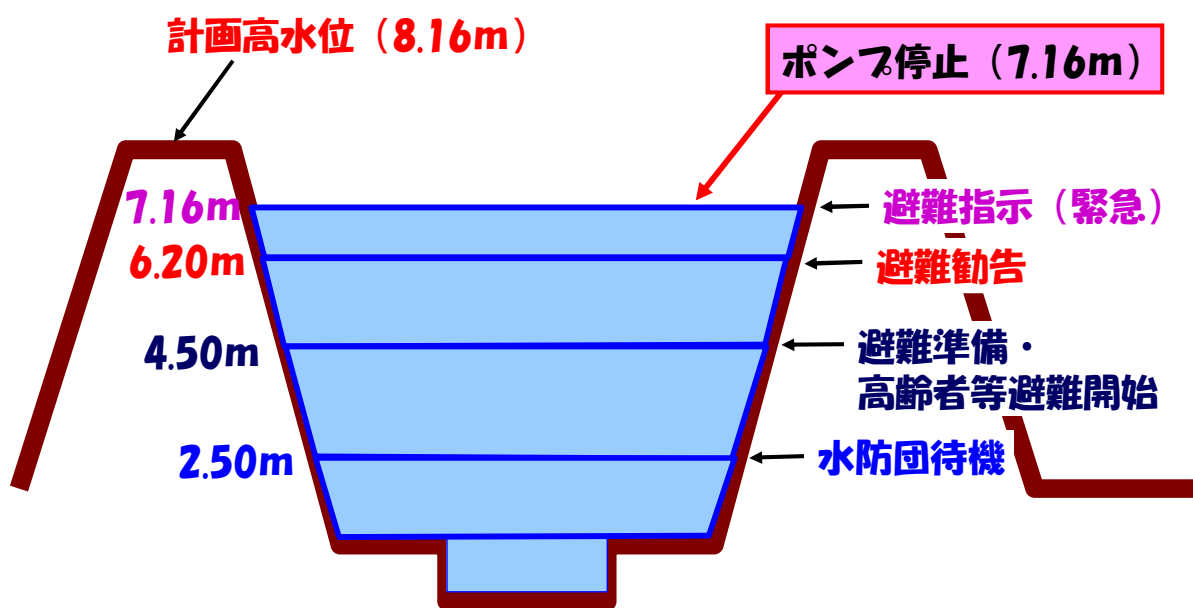
写真は国交省提供



## 避難情報の意味を知る



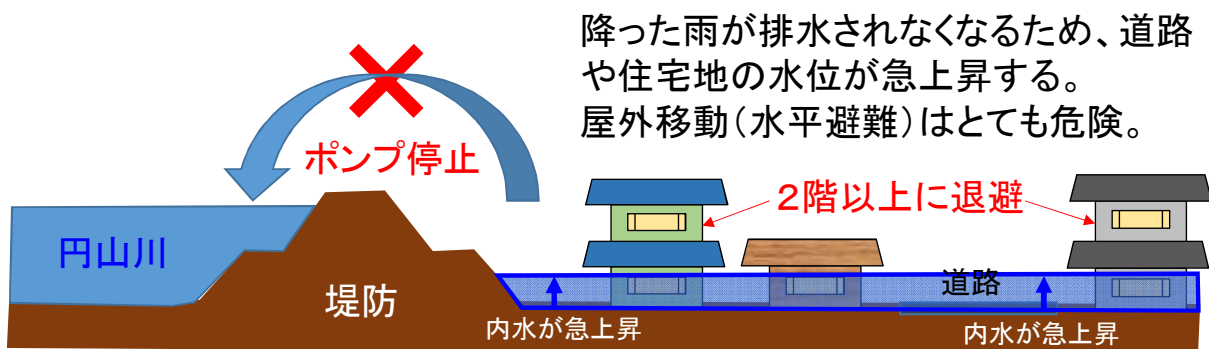
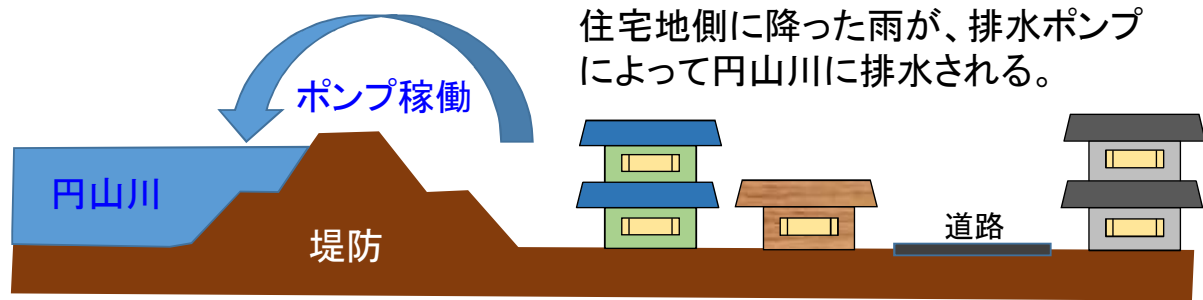
## 堤防決壊を防ぐための排水ポンプ停止基準



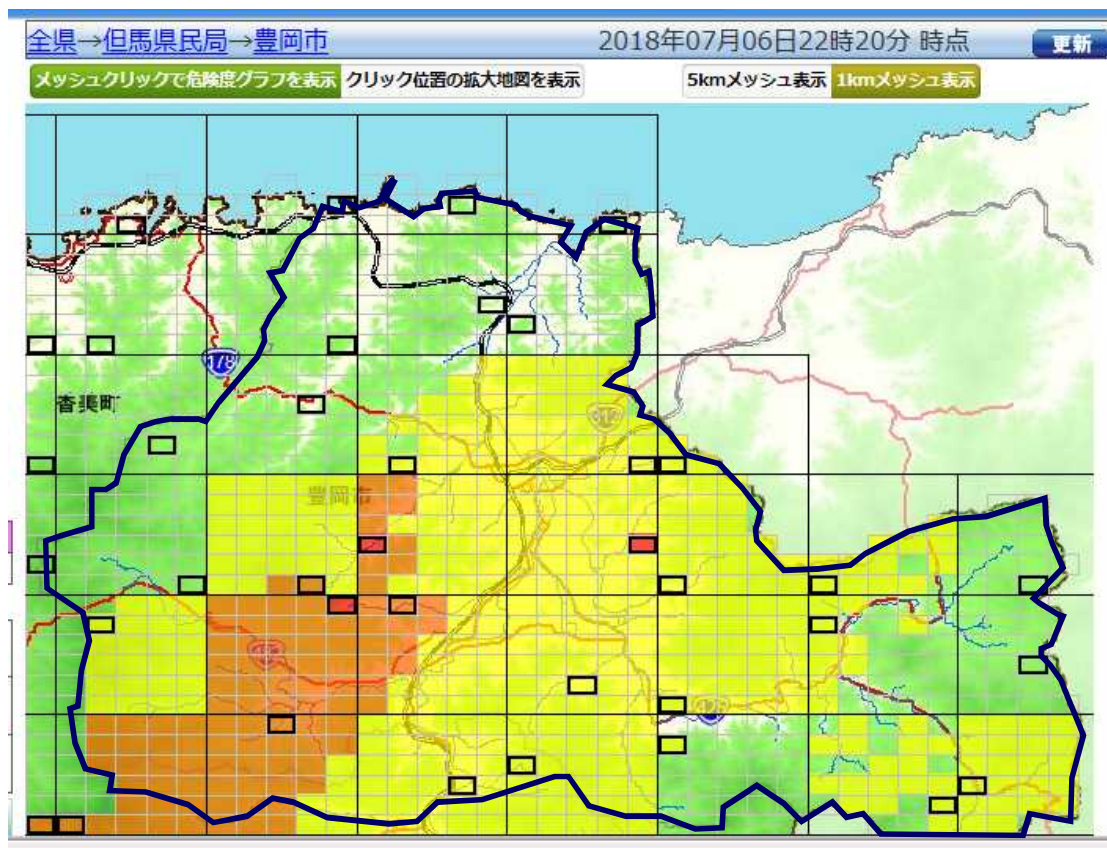
避難情報の基準となる **立野** 水位観測所の水位

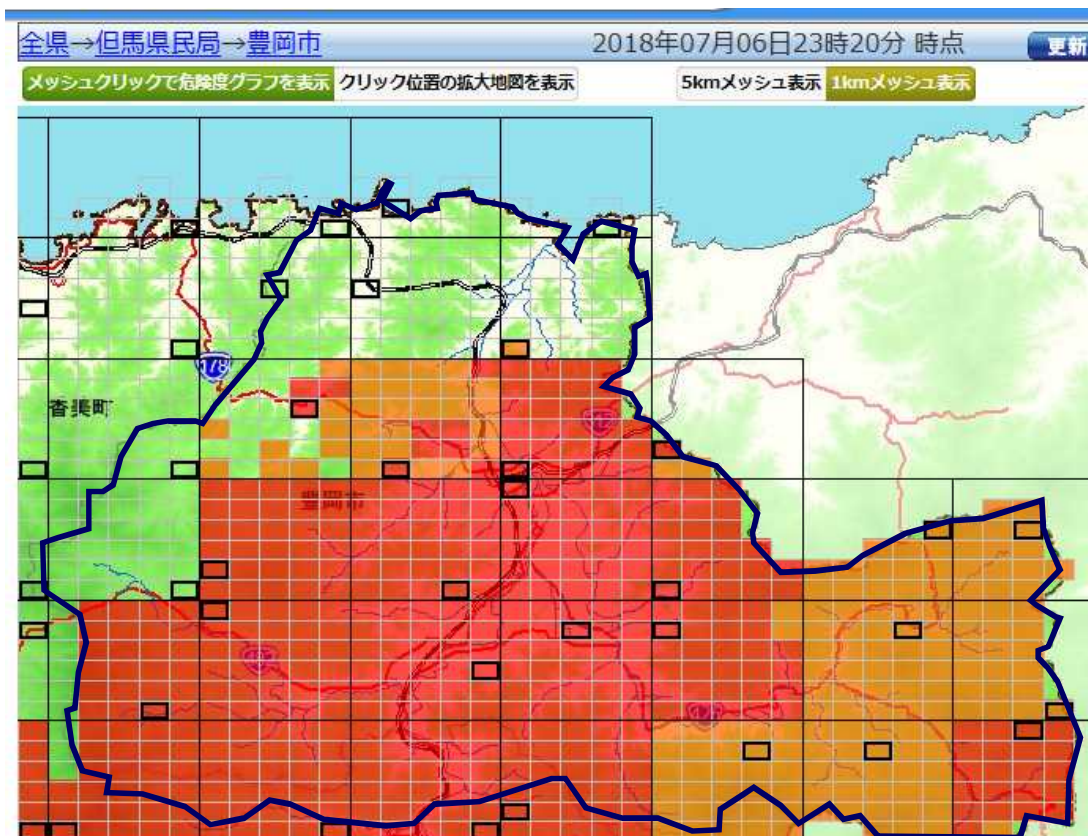


# 排水ポンプを停止すると



7月6日(金)22時20分 (特別警報発表30分前)





## 住民避難の取組み(抜粋) 1

6日14時00分 **自主避難所の開設**(34か所)

【防災行政無線放送(抜粋)】

現時点では、まだ避難準備情報を出す段階にありませんが、夕方から明日にかけて更に強い雨が予想されています。

夜間の避難が不安の方のため、午後2時に次の施設を自主避難所として開設しました。

6日16時00分 **全避難所へ職員配備完了**(126か所)

6日18時55分 **全避難所を開設**(126か所)

【防災行政無線放送(抜粋)】

現時点では、まだ避難準備情報を出す段階にありませんが、明日にかけて更に強い雨が予想されています。

強い雨の中での移動を避けるため、午後7時に豊岡地域の全ての避難場所を自主避難所として開設します。

## 住民避難の取組み(抜粋)2

6日19時42分 土砂災害警戒情報発表

6日20時00分～ 地域ごとに避難準備情報を発令

6日21時15分 気象台からのホットライン(大雨特別警報発表予告)

6日22時50分 大雨特別警報(土砂災害)発表

6日22時55分 全市に**避難勧告**を発令 ⇒ **垂直避難を求めた**

【防災行政無線放送(抜粋)】

22時50分、兵庫県に「大雨特別警報(土砂災害)」が発表されました。  
これを受けて、豊岡市全域に避難勧告を発令します。

①自宅の2階以上の山から離れた部屋で過ごしていただく。

②山から離れた近所の2階に避難させてもらう。など

それぞれの状況に応じて判断し、自らの安全確保を図って下さい。

6日22時55分 市職員、消防団員に**現場からの撤収を指示**

## 住民避難の取組み(抜粋)3

7日01時40分 円山川立野地点で氾濫危険水位(6.2m)超過

7日04時00分 円山川立野地点の水位がピーク(6.96m)を迎える

7日06時45分 円山川支流で消防団が**漏水対応(月の輪工法)**

7日10時40分 堤防沿いの2集落の区長に**避難指示発令の予告**

対象者が限られていることから、2集落の区長との協議により、防災行政無線の放送前に消防団等の支援により避難を開始させることとした。

7日12時00分 堤防沿いの2集落に**避難指示**発令

【防災行政無線放送(抜粋)】

避難指示発令！ 避難指示発令！

奈佐川右岸、柝江橋下流の堤防敷で漏水が発生しています。

安全のため福田区、下陰区に避難指示を発令します。

両区の皆さんは、速やかに避難してください。

避難先は、豊岡北中学校です。



## 円山川支流での漏水対応



## 避難指示対象地区の避難支援



### 1. 特別警報の意味が市民に十分理解されていなかった

特別警報発表後、市職員、消防団員が現場から撤収した後も避難せずに現場で活動する市民がいた。また、撤収した消防団員に一部で批判が上がった。

【対応】 6地域で行う市政懇談会（359区長が対象）で、市長が特別警報時取るべき行動や速やかな避難の重要性についての講話を行った。ホームページや市広報で、特別警報の意味について徹底した。

### 2. 自主避難所が十分活用されていない

危険が迫ってからの避難はリスクが大きいため、危険が迫る前の避難を推奨すべく自主避難所を開設しているが、早めの避難に結びついていない。

### 3. 避難所が遠方だと避難しない

豊岡市は面積が約700km<sup>2</sup>と広く、集落数も359区と多い。そのため指定緊急避難場所(126か所)から距離が遠い集落も多い。避難者の傾向としては、近くに避難場所がある集落では避難の取組みが進むが、遠方の場合は垂直避難を選択する事例が多い。